

群 教 セ	G08 - 03
	平 29.265 集
	商業

「課題研究(作品制作)」における、地域を 理解し活躍できる生徒を育成する指導の工夫

— 地域連携に向けた課題を設定し、解決に取り組む活動を通して —

特別研修員 柳沢 俊明

I 研究テーマ設定の理由

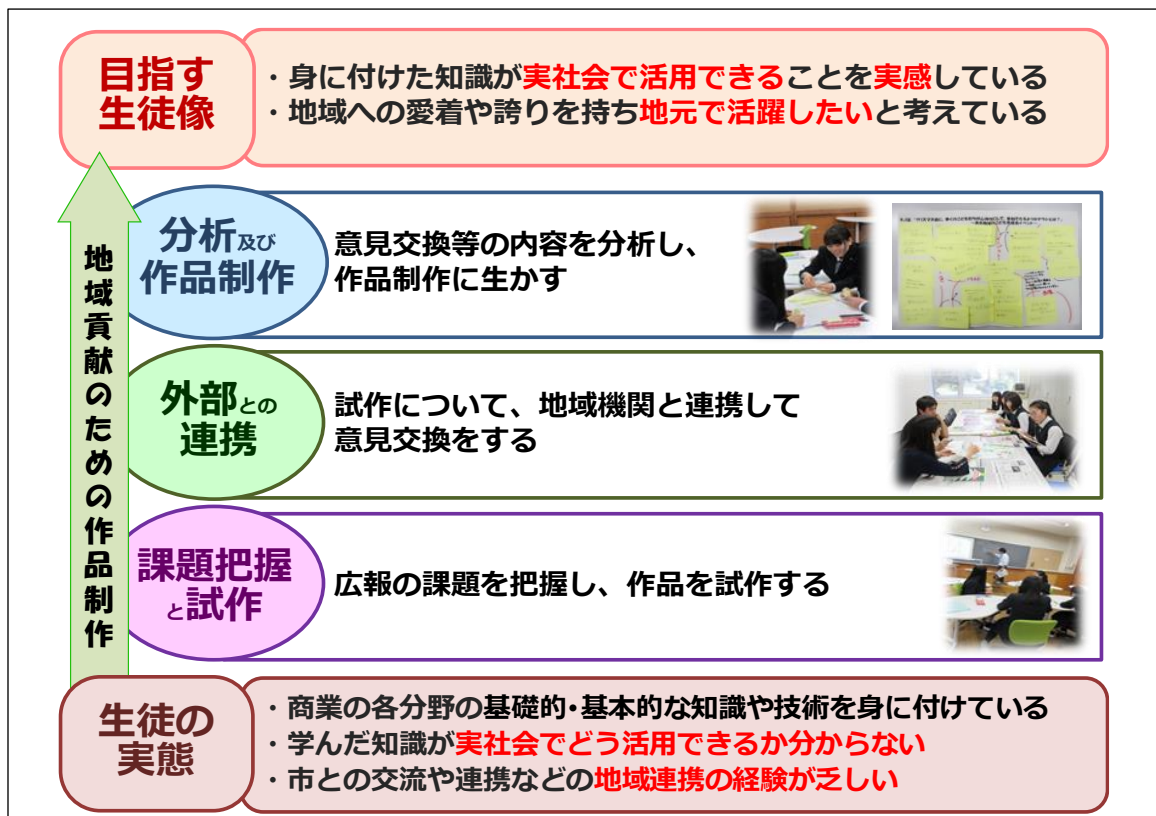
高等学校学習指導要領（商業）の目標では、「ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行い」とあり、その解説では、「地域や産業界と連携して共同して課題解決に取り組む機会を設けるなどの工夫を図り」と示されている。また、第15次群馬県総合計画「はばたけ群馬プランⅡ」の【基本目標Ⅰ 地域を支え、経済・社会活動を支える人づくり】では、「郷土への誇りと愛着の育成・信頼される魅力的な学校づくり・多様な連携による人づくり」等と示されている。

所属校商業科の生徒の多くは、会計・情報・経済・マーケティングの各分野の基礎的・基本的な知識や技術を身に付けている。しかし、学んだことが、実社会のビジネスでどう活用できるかを実感できない生徒が多いと感じている。さらに、所属校は市立の高等学校であるが、これまで地域との交流や連携などの地域連携が少ない傾向にある。

そこで、市立高等学校である所属校の特色を生かして、地域と連携をして地域主催イベント等のPRを含めた掲示物を制作して、地域の活性化を目指したいと考えた。将来、地域への愛着や誇りを持ち地元で活躍したいと願う社会人の育成を目指したい。以上のことから、地域連携を通して、地域を理解し活躍できる生徒の育成を目的とし、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

これまで授業で学んだ知識を生かし、地域を理解し活躍できる生徒を育成するために、次の三つを手立てとして考えた。

「①地域主催イベントの広報のために、広報の課題を把握し、作品を試作する」

- ・学習してきたことが、実社会のビジネスと結び付いていることを理解して、学習してきたことを実践できる能力を育成する。
- ・地域の方が、生徒に新しい発想等を期待していることを伝え、モチベーションを高める。

「②試作した作品について、地域機関と連携して意見交換等をする」

- ・試作した作品の改善に向けて、地域機関の視点でアドバイスを受け、意見交換をする。
- ・事前学習で生徒に質問項目等を考えさせ、意見交換に向けた準備をさせる。
- ・「ビジネス基礎」等で学習したビジネスマナーを実践できるようにする。

「③地域との意見交換等の内容を分析し、作品制作に生かす」

- ・既習の分析方法であるKJ法を用い、アドバイス等の内容を分析し、作品制作に生かす。
- ・広報の結果について、アンケートを取り、今後の作品制作に生かす。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 手立て①「地域主催イベントの広報のために、広報の課題を把握し作品を試作する」について
生徒がこれまで体験してきたイベント（育成会のクリスマス会）の広報について、既習学習「広告と販売促進」で学んだ“伝える対象、伝える情報、強調する情報等”の課題を把握させて作品を試作し、学習してきたことが、実社会と結び付いていることが実感できた。
- 手立て②「試作した作品について、地域機関と連携して意見交換等をする」について
地域機関に行く前に、事前学習として質問項目等を考えさせ、意見交換に向けた準備をさせた。太田市役所市民課（世良田行政センター）を訪問し、職員2名に質問をしながら意見交換を行い、アドバイスを受けた。1学期の実践（太田市役所企画部観光課との連携）を経験しているので、事前学習で考えていた質問を行い有意義な意見交換等を行うことができた。さらに、既習学習「ビジネス基礎」等で学んだビジネスマナーを実践できたことも、スムーズな連携につながった。
- 手立て③「地域との意見交換等の内容を分析し、作品制作に生かす」について
行政センターでのアドバイスについて、グループで内容をまとめることができた。訪問時にメモ書き等がしっかり取れていたため、活発に意見を出し合っていた。次にKJ法（ビジネス情報で学習済み）を用いて、まとめたアドバイスの内容を基に分析を行った。各自が多くの考えを付箋に書き出すことができ、作品の完成に向けた方向性についてまとめることができた。今回の作品制作は、実際に地域へ配布する作品ということもあり、生徒が真剣に、自覚や責任感を持って取り組んでいる様子が見られた。

2 課題

- 事前学習において、調査や取材時のポイントを理解させ、既習事項を生かし取材時の質問を考える時間等を設定した。しかし、生徒たちはこれまで調査や取材等の経験が少なく、質問等を具体的に考えるのが難しく、実感が湧かないようであった。今後は、授業教材に身近な地域の実例等を取り入れ、地域に目を向けさせる指導や助言が必要である。
- 地域機関との連携のため、太田市役所市民課を訪問した。外部の方との実際のコミュニケーションが大切だと実感した。学習しているビジネスマナーの実践場面を増やす必要がある。
- KJ法による分析では、「クリスマス会に多く子どもたちが心待ちにして、参加できるようなチラシとは？」を課題にした。今回は教員が課題設定を行ったが、このような課題も生徒たちが意見交換をして、決定していけるとより良いと感じた。3年間の学校生活の中で、授業やLHR、特別活動等の時間を活用して、系統的に育成をする必要がある。

実践例

1 単元（題材）名 「地域活性化につながる作品の制作方法」（第3学年・2学期）

2 本単元（題材）について

本題材は、取材や作品制作実習を通して、意欲的に地域社会に貢献できる生徒の育成を目的とする。取材や調査をする中で、「どのような作品を制作したら、地域の活性化につながるか」について考えさせる。また、外部との打ち合わせや折衝等の経験をする中で、円滑な地域連携ができる態度を養う。その中では、「経済活動と法」「広告と販売促進」「ビジネス情報」の知識を生かし、実社会のビジネスと学習内容が結び付いていることを理解させ、地域主催イベントのPRを含めた掲示物等の制作につなげていく。

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○調査や取材を行う時のポイントを理解できる。 ○既習事項を生かし、取材時の質問を考えることができる。 ○調査や取材の際に、質問や回答等のメモを自主的に取ることができる。 ○K J法の結果を分析することができる。 ○K J法の分析結果を作品制作に結び付けることができる。 	
評価 規 準	関心・意欲・態度	調査や取材で、質問やメモを取るなど、自ら取り組もうとしている。
	思考・判断・表現	これまでの知識を生かし、取材の質問を考えている。 K J法の結果を作品制作に生かしている。
	技能	K J法の分析結果に即して作品を制作している。
	知識・理解	調査や取材を行う時のポイントを理解している。 K J法の活用方法や結果を理解している。
過程	時間	主な学習活動
課題 把握	第1時	作成する広報の課題を把握し、作品を試作する。
課題 追究	第2時 第3時	市役所等で取材を行い、試作した作品について地域連携（「アドバイスを受ける」「意見交換をする」）を行う。
	第4時	アドバイス等を踏まえて、K J法で分析を行い、作品制作に生かす。
まとめ	第5時	K J法の分析結果を生かして、作品制作を行う。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時では、前時までの太田市役所市民課（世良田行政センター）での連携を生かし、意見交換から得たアドバイスの内容をまとめ、それを基にK J法を用いて分析を行った。また、K J法による分析の結果から、どのような作品制作をすれば良いのか、生徒同士で話し合わせた。さらに、「広告と販売促進」で学んだ【広告の要求】について、実社会のビジネスと結び付いていることを理解させ、イベントのPRを含めた掲示物を制作して、円滑な地域連携ができる態度を養うことをねらいとした。

具体化した手立てとしては、「2 授業改善に向けた手立て」の3点を基に以下のように設定した。

手立て1 地域機関からの試作した作品に対する意見交換（地域連携）について振り返る

前時に、太田市役所市民課（世良田行政センター）の職員2名からアドバイスを受けた。質問した内容や受けたアドバイス等についてグループで意見交換をしながら振り返り、一つにまとめた。また、取材時の写真や本日の流れについてICT機器を用いて提示し、本時の授業展開のポイントを理解させた。

手立て2 まとめた内容を基に分析する

ビジネス情報で学習したK J法についてICT機器により解説画像を提示し、復習させた。まとめた内容を基にK J法で分析し、作品制作に向けて身近な地域の課題である「作品制作～クリスマス会PRチラシ作成～」に向けて、方向性を決めた。また、K J法がビジネスの現場で活用できることも意識させた。

4 授業の実際

前時までに「作成する広報物（クリスマス会のチラシ）の課題把握」「作品の試作」「試作した作品について地域機関からアドバイスを受ける」という流れで授業を行った。

本時の授業では、地域機関から受けたアドバイスや交換した意見を作品の完成に生かすことを目標とした。

[学習課題] 地域活性化に向けた作品制作～クリスマス会PRチラシ作成～

(1) 導入

前時までに地域連携として行った行政センターでの調査や取材について振り返りを行った。意見交換した内容や質問、メモ等が記入してあるワークシートを見ながら、各自が大切だと感じたことや確認したい内容について、再確認をした(図1)。

本時の活動内容のポイントについて、「活動の全体イメージ」(図2)で視覚的に確認をした。



図1 行政センターでの調査取材

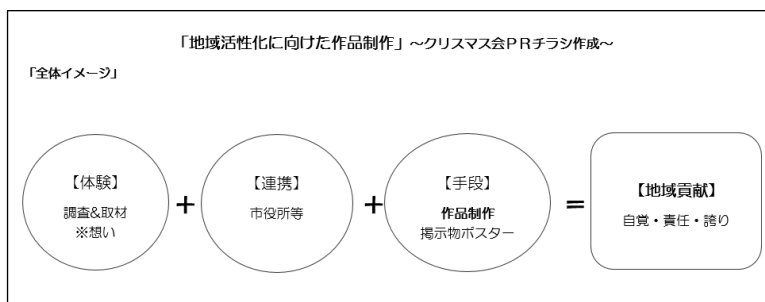


図2 活動の全体イメージ

(2) 展開

市役所での意見交換（地域連携）時のアドバイスや、収集した資料、ワークシートを参考にしながら、各自が自分の意見を発表し、一つにまとめた(図3)。また、各自が率直な意見を発言できるように、他の生徒の意見を否定しないことを確認した。

2年次にビジネス情報で学習したK J法の意義を再確認した(図4)。

意見交換をまとめた内容を参考に、各自が付箋へ記入を行った。また、付箋への記入が進まない生徒には助言をした(図5)。

各自が記入した付箋を、読み上げながら貼り、4グループ（インパクト、色、イラスト、画像）でまとめた(次頁図6)。また、必要に応じて補足を書き加えた。

- ・必要なものを書き込んでからレイアウトを考える。
- ・タイトルを一番目立つようにする。
- ・簡単に分かりやすくする。
- ・対象者が興味を引くようにする。
- ・チラシを見る対象を意識したレイアウト（文字の太さ、フォントの種類、改行、構成、インパクト）にする。
- ・文字を見やすくするために、色使いを考える。
- ・肖像権への配慮をする。

図3 意見交換のまとめ



図4 K J法の再確認



図5 付箋への記入

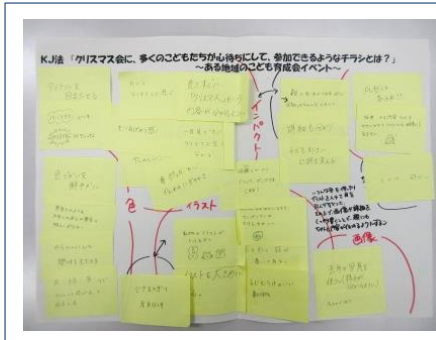


図6 まとめた内容

○付箋に書かれた意見

- ・見てすぐに「クリスマス」という内容が分かるようにする。
- ・イベントの詳細も分かるようにする。
- ・子ども向けの表現にする。
- ・去年の様子が分かるような写真を使う。
- ・イラストを大きめにする。
- ・できるかぎり文字をなくす。
- ・色使いを鮮やかに、楽しく盛り上がる雰囲気にする。

KJ法で分析した結果を踏まえて、作品をどのように完成させたら良いかを考え、方向性を決めた。

(3) まとめ

本時の振り返りをして、次時以降の活動について、確認をした。

5 考察

今回の作品制作は、実際に地域へ配布する作品のため、生徒が真剣に、自覚や責任感を持って取り組んでいる様子が見られた。また、「ビジネス情報」で学習したKJ法を実践することで、身近な学習内容を実社会で活用できることを認識させることができた。

生徒の振り返りワークシートからは、「自分たちが何を知りたくて、どこに行くのがとても大切だと思った」「将来、社会人になった時に、こういう機会があったことを生かせると思う」「『ビジネス実務』のビジネスマナーを学習していたので、多少の知識があり、多くのタイミングで実践できたことが良かった」「KJ法を行うことによって、話し合いだけでは思い浮かばないことが、浮かび上がった」「自分たちで考えたチラシが、実際に配られることによって、クリスマス会がどうなったのか気になる」等の感想や意見があった。各生徒が自分や他の生徒の発想を生かして、しっかりと取り組み、これまでの学習内容が活用できると実感していることが分かった。

制作した作品（クリスマス会のPRチラシ）について、各地域関係者からの感想・意見は次のようであった。配布先の保護者からは「見やすい」「きれい」「かわいい」等の意見があり、生徒も励みになったと考える。また、行政センターからは「レイアウト、見やすさなど良くできていると思います」「写真やイラストを上手に使ってあり、楽しそうな雰囲気が伝わるチラシだと思います」などの感想・意見があり、様々な視点から見てもらい、生徒が大きな達成感を持つことができた。

今回の実践で、学習したことを実体験させることが改めて大切だと実感した。さらに、『課題研究』という科目の特性も考えられるが、教えるだけではなく、生徒に考えさせることや実践させることにより、生徒が自らの成長を実感できると感じた。そのためには、教師の側が「静観すること」「教えすぎない」「言い過ぎない」といった指導をすることが大事だと改めて実感した。他教科の授業、ホームルーム活動や特別活動等、学校生活全般において、「生徒に実体験させる」「教師は、静観することや一方的に教えたり言い過ぎたりしない指導」を常日頃から実践することが大切だと考える。今後の授業展開に活用していきたい。



図7 完成したチラシ